



教育・イン・ザ・ワールド

— エクアドルの教育事情 —

一口にエクアドルの教育と言っても、貧富の差や地域による生活の違いが極端なこの国では、その特徴を語ることは難しい。小さな国でありながら、日本顔負けの学校に通える子から、堀っ立て小屋のような所で学ぶ子、果ては学校に行けず路上で靴を磨いたり、バスで物売りをして生活を支えなくてはならない子まで、教育の事情も様々である。むしろ生まれた境遇によって天と地程も違うという実態こそが、この国の教育の特徴と言えるのかもしれない。ここでは、山岳地帯に位置する田舎町の公立小学校を例に紹介してみたい。

①**義務教育**：原則的に小学校の6年間だが、留年の制度もある。就学率は100%には程遠い。

②**学区**：特に規定はなく、自由に学校を選ぶことができる。遠くまでバスなどで通う子も多い。

③**学校生活**：7：45～12：30 毎朝の15分間の朝礼を行い、45分間の授業を6時限行う。休み時



▲これも立派な通学手段（お金もとります）

間は3と4時限の間の30分のみ。ここでおやつを食べたり遊んだりする。6時限目が終わると子供も教師も一斉に下校し、家で昼食をとる。

④**学習状況**：日本で学習する教科とほぼ同じだが、内容のレベルは低く量も少ない。日本の1年分を3年間で学習しているという位のんびりしている。学校の決まった予算などはなく、建物や教材・教具はととても粗末。必要に応じて父兄から寄付を募る場合もある。学校では基本的な生活指導もするが教科指導が中心。情操的な教育はあまり見られない。職員会議などは授業中に行われる。（授業は二の次？）年度初めには教育のストもある。

⑤**子供の特徴**：明るく元気で人懐っこい。家族の絆が強く、上の子は弟妹の面倒見がととても良い。男の子は三度の飯よりサッカーが好き。



▲マント運動に挑戦（6年生）



▲初めての綱引きに大喜び（4年生）



▲私の送別会に子供たちが披露してくれた地域の伝統的な踊り